

● 国の登録有形民俗文化財の新登録の答申が行われるものの概要

【名称】 志摩半島の生産用具及び関連資料

【所有者】 志摩市

【保管場所】 三重県志摩市歴史民俗資料館、同資料館迫塩収蔵庫

【員数】 3, 828点（生産用具3, 701点、関連資料127点）

志摩半島の生産用具及び関連資料は、志摩半島において、漁撈や農耕などの生業に使用された用具と、船大工や鍛冶屋などの諸職の用具を広域的に収集したもので、明治時代後半から昭和30年代にかけての資料が中心となっています。

英虞湾やの矢湾などリアス式海岸が発達した湾内の「内海」ではイワシやボラ、コノシロなどを対象とした網漁、真珠や青海苔、カキなどの養殖、鰹節加工やきんこ（ナマコ加工品）作り、外洋に面した「表海」では海女漁や鰹漁などが主に行われてきました。その一方、内陸部では、稲作や畑作、養蚕も盛んであり、山樵や養蜂なども行われていました。また、漁撈を支える船大工や桶屋、鍛冶屋などの職人も数多く、石工や瓦屋などの職人も集団的に活動していました。

収集された資料は、このような志摩半島における伝統的な生産活動に用いられた各種の用具を中心に構成されています。このほか、かつて賢島にあり、日本の真珠養殖の発展に寄与した旧国立真珠研究所（昭和54年に機構改革により 現：増養殖研究所 に移行）の資料も、関連資料として含まれています。

本資料は、昭和55年の志摩民俗資料館の開館に向けて、日本観光文化研究所が志摩半島全域から収集した資料群として分類整理したものを中心としており、半島全域の生産活動を伝える内容となっています。特に、漁撈用具が充実しており、真珠養殖などこの地域の近代以降の産業の特色も示す資料群となっています。周囲を海に囲まれ、半島部の多い我が国の生業の変遷や地域差を考えるうえで注目されます。



漁撈の用具



農耕・養蚕の用具



諸職の用具



漁撈（海女漁）の用具



関連資料（旧国立真珠研究所資料）

志摩半島の生産用具及び関連資料(内訳)

大分類	中分類	点数
1. 漁撈	海女漁	161
	磯漁	118
	突漁	18
	釣漁	304
	網漁	205
	タコツボ漁	98
	籠漁	4
	海苔養殖	6
	真珠養殖	107
	カキ養殖	15
	鯉節加工	30
	海産関係	33
	きんこ作り	8
	水揚販売	134
	漁具製作	78
	船関係用具	129
	信仰儀礼用具	12
	その他	24
	(小計)	1,484
	2. 農耕	稲作
畑作		367
その他		185
(小計)		1,019
3. 山樵		23
4. 養蚕		228
5. 養蜂		14
6. 諸職	瓦屋	123
	桶屋	32
	船大工	201
	家大工	90
	石工	264
	鍛冶屋	125
	左官	13
	その他	85
	(小計)	933
関連資料: 旧国立真珠研究所資料		127
	計	3,828